第４５８回鉄鋼流通問題懇談会

２０２２年7月２６日（火）１４：３０
茅場町「鉄鋼会館８０２＋８０３＋８０４」

議　題

ご紹介：全鉄連より常任理事・大川伸幸氏（芝浦シヤリング㈱代表取締役社長）

１．配布資料説明（全鉄連）

２．　全鉄連情勢報告

（１）地区の状況

〇東京、大阪地区概況報告

（２）その他地区の概況

〇鉄流懇７月例会で発表の各地区業況アンケート結果

（３）総括：阪上全鉄連会長

３．意見交換

４．経済産業省挨拶

５．鉄流懇会長挨拶

６．その他

〇次回以降会議予定

２０２２年１０月　　日（　　）１４：３０～　　於：未定

鉄鋼流通問題懇談会　品種別動向について（２０２２年７月）

発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	メタルワン	住友商事グローバルメタルズ	阪和興業	エムエム建材
1．需給動向（景況感）	中小案件の減少に起因する各特約店の出荷量減は 21 年 8 月中旬以降継続、22 年 5 月以降は特に動きが悪く、浦安鉄鋼団地内全体の出荷量を見ても、右肩下がりの状況。大型案件向けの引合いは来年以降も引き続き旺盛である見通しだが、中小案件の復調に関しては不明瞭。更に、21 年 11 月以降の自動車メーカー各社減産の影響により、自動車分野向け鋼管出荷量は減少、鋼管需給にも不透明感がある状況。 価格動向につき、溶協メーカーは各社概ね７月現在(店売り)＋60 円/kg の値上げを実行済、更に追加値上げの要請も出てきており、特約店による価格転嫁も必至の状況。	2021 年 5 月末の薄板三品在庫（確報値）は、前月比 3.4%増の 465 万 8 千トンとなり、3 ヶ月ぶりに増加した。5 月の連休による季節要因が強いが、昨年 10 月以来 8 ヶ月連続で 450 万トンを超える水準が続く。在庫内訳は、メーカー在庫が前月比 9 万 8 千トン増の 201 万 8 千トン、問屋在庫が同 4 万 6 千トン増の 103 万 4 千トン、コイルセンター在庫が同 9 千トン増の 160 万 7 千トンとなった。在庫率は 3.22 ヶ月となり前月比 0.06 ポイント増加した。メーカーの減産シフトは鮮明になっているが需要に足踏み感もあるだけに、市況改善を進めたい市場にとって、在庫過剰は大きな重荷となっている。需要分野では、自動車が半導体不足、サプライチェーンの混乱等で依然として低調。受注残を多く抱え、一部で増産の動きはあるものの、構造的な問題である半導体不足を抱えているだけになお不透明感が濃い状況。	月末の全国厚中板在庫は449千トンで前月比4,683トン増。受け入れ量が出荷量を上回った結果、3ヶ月連続の在庫増となった。在庫率は全国ベースでは前月比24.4ポイント上がり303.5%と、適正在庫率と言われる200% を依然上回っており、5月には300%を超えた。 需要に関しては、建機分野は昨年度に引き続き好調、海外への出荷堅調に加え、国内案件も伸びてきている。建築も中小案件がやや鈍いもの大型再開発案件が控えていることもあり、全体的には堅調。造船も落ち込みなく推移。産業機械関連は部品調達難もあり、やや荷動き悪い。一方で供給面では各高炉メーカーの厚板母材価格は大幅に上昇。製品価格への転嫁が間に合わず、先物と比較し現物市況が切り上がらない状況が続く。	棒鋼：関東地区の推定明細受注量は４月の 30 万トンをピークに５月は 15 万トン、その後は原材料スクラップの下落などもあり、需要家は様子見に徹しており、引き合いは落ち着きを見せている。メーカーはスクラップ以外の副資材価格の高止まりや為替影響も勘案し、採算改善のための値上げを進めているが、7/12 の関東鉄源入札価格も大幅に下がっており、今後の交渉における懸念材料となりそう。 形鋼：5 月末のときわ会全国在庫は 188.3 千トンと 3 か月連続の減少となった。東日本地区において、一部メーカーからの供給が滞ったことから、市中在庫の歯抜けが発生。市況上昇の要因となっている。
2．需要産業動向	【建築・土木】4 月の新設住宅着工戸数は、前年同月比 22.2%増の７万 6179 戸だった。 持家は前年同月比 8.1%減の２万 1014 戸と５カ月連続で減少し、先月に続いて過去 10 年間で最も低い水準となった。一方、分譲一戸建て住宅は前年同月比 7.4%増の１万 2448 戸で、12 ヵ月連続の増加となった。 【自動車】トヨタ自動車など国内乗用車メーカー8 社における、22 年４月単月の世界生産は前年同月比 21%減の 163 万台。8 社合計の国内生産は 19%減の 54 万８千台と、ロックダウンの影響による部品製造ｐラインの停止や海上輸送の遅れも重なり、減少となった。8 社の海外生産は 21%減の 108 万５千台、中国生産の落ち込みが大きかった影響で各社とも減少となった。 上海のロックダウンは６月１日に解除され、各社影響が緩和していく見込みの一方で半導体など部品不足解消の目途は未だ立っておらず、先行き不透明な状況が続く。 【建機】４月の建設機械出荷金額は、内需は１１．３%増加の６４０億円、外需は６．１%増加の１，５８５億円となった。内需について機種別に見ると、建設用クレーン(42.1%増)、コンクリート機械（34.8%増）など５機種と、補給部品（5.8%増）が増加、外需について機種別にみると建設用クレーン（86.3%増）、油圧ブレーカ・圧砕機　(27.7%増）など全９機種と補給部品(23.5%増）が増加となった。 【造船】３月の起工量は前年同月比 21.3%増の 86 万 G/T と２ヵ月連続で増加、2021 年度は前年度比 8.3%減の 872 万 G/T と２年連続の減少となった。４月の輸出船契約量は前年同月比 10.5%増の 191 万 G/T と２ヵ月連続で増加、４月末の手持工事量は前月末比 7.1%増の 2,035 万 G/T と２ヵ月連続で増加となった。	2022 年６月の自動車国内販売は、29 万９千台（前年同月比 8.9%減）と、12 ヶ月連続のマイナスとなっている。乗用車が 24 万２千台（同 7.6%減）、トラックが 57 千台（同 14%減）となった。 ６月の民生用電気機器の国内出荷金額は、2,693 億円（同 9.2%減）と３ヶ月連続のマイナスとなった。ルームエアコン、電気洗濯機は３ヵ月連続のマイナス、冷蔵庫は２ヵ月連続のマイナスとなった。民生用電気機器全体では、前年６月が過去３番目の高水準であったことに加え、上海で約２ヶ月続いたロックダウンによる生産・供給への影響が残り、前年同月を下回った。 国土交通省より発表された、５月の新設住宅着工戸数は 6.7 万戸（同 4.3%減）と、15 ヶ月ぶりに減少した。貸家は増加したが、持家及び分譲住宅が減少した。また、季節調整済年率換算値では前月比 6.5%の減少となった。	造船の5月末輸出船手持ち工事量は2,086万GTで、4月比2.5%増と4ヶ月連続の増加となった。2022年度4-5月分の輸出船受注量は、前年同期比11%減308万GTと36万GT減少。これを受けて2022年5月末の輸出船手持工事量は前年同期比19%増の2,086万GTと395万GT増加。 建設機械の5月の出荷金額は内需が665億（前年同月比1.5%増、外需が1,640億（同17.5%増）、合計2,305億円で前年同月比12.4%増となった。総合計では22ヶ月連続で増加。大手建機メーカーの生産計画は前年比＋20～30%の生産台数を見込むもののエンジンなど部品調達次第で一部調整が入る。 産業機械の4月受注金額は内需が2,408億（前年同月比3.8%増）、外需が1,373億（同25.7%増）、 合計3,782億円で前年同月比10.8%増。機種別ではポンプ、運搬機械、変速機、金属加工機械が堅調。 建築に関して、鉄骨数量は 2021 年度 466 万トン。前年度比 13%増。中小物件は盛り上がりに欠けるが、再開発、物流倉庫等の大型案件は堅調	6/30 国土交通省発表の５月建築着工統計調査によると、全建築物の着工床面積は 970 万㎡で前年同月比▲6.9%となった。内訳としては、工場および倉庫は増加傾向も、事務所、店舗が大幅に減少したことによるもの。尚、下期以降も首都圏の再開発や物流倉庫を中心とした大型案件が牽引して行くトレンドに変化はない。 一方で中小案件も、足下の新規出件は乏しいものの、一部で延期となっていた案件がようやく出件される動きもあり、期待が高まっている。
3．輸出入動向	2022 年５月度鋼管輸出量 継目無鋼管：１万 5,604 トン（前月比▲14.3%） 溶接鋼管：１万 3,455 トン（前月比▲63.0%） 2022 年５月度鋼管輸入量 継目無鋼管：　　1,874 トン（前月比▲3.8%） 溶接鋼管：１万　618 トン（前月比＋15.5%）	５月の薄板三品輸入量は前月比６万５千トン増の、26 万１千トン（前年同月比 11.2%増）であった。主要品種別では、熱延鋼板が 11 万５千トン（同 33.7%増）、冷延鋼板が６万９千トン（同 8.1%減）、亜鉛めっき鋼板が７万８千トン（同 4.7%増）となっている。５月末の輸入岸壁在庫は 15 万９千トンで、前月比で９千トン増となり、２ヶ月ぶりの増加。	5月の輸入通関実績は前月比10千トン減の25千トン。中国からのほぼ入着は無く、韓国が22千トン 前月比11千トン減、台湾が2.8千トン（前月比0.8千トン増）となった。 5月の輸出船積実績268千トン（前月比38千トン増）。 中国向けで 11 千トン増、韓国向けは 10 千トン減、東南アジアではベトナム向け６千トン減、シンガポール向け 21 千トン増、欧州向けは７千トン増となった。	直近の実績（22 年４月統計データ）に見る輸出入状況は <輸出>形鋼：65 千 MT（前月比 3.2%増、前年同月比 56.8%増） 棒鋼：53 千 MT（前月比 24.1%減、前年同月比 7.9%増） <輸入>形鋼：5.6 千 MT（前月比 33.5%減、前年同月比 2.9%増） 棒鋼：2.1 千 MT（前月比 60.3%減、前年同月比 50.9%減） ※形鋼は輸出入共にＨ形鋼以外も含む ロシアのウクライナ侵攻を受け、供給懸念の高まりからアジアの形鋼市況に於いても市況高騰の流れが波及し、他国材との値差が縮まった日本からの輸出も増加した。
4．海外市場動向	原油価格（WTI）は依然高値で推移。６月平均 WTI は 114.8ﾄﾞﾙ／バレルとなり、３ヶ月前（３月平均 108.5ﾄﾞﾙ／バレル）に比して約 106%の水準。米国リグカウント数も回復傾向（６月最終週：753、３月最終週：670）にあり、油井管の引き合い強く、高値で取引されている。	世界鉄鋼協会がまとめた世界 64 カ国・地域の５月の粗鋼生産量は、前年同月比 3.5%増の１億 6,950 万トンと 10 ヶ月連続の減少であった。中国は、9,661 万トン（同 3.5%減）と 11 ヶ月連続の減少も、２ヶ月連続の９千万トン台であった。資源・エネルギー価格が高騰し、米国では金融政策の転換によって景気の減速懸念が台頭してきている。また中国では都市封鎖によって、経済活動が制限され、且つサプライチェーンにも混乱をきたした。鋼材需要の落ち込みで、海外市況は下落を続けており、中国・アセアンのミルは漸く減産に舵を切った。秋口以降では中国政府の景気支援策効果が期待される。	中国の 22 年度 GDP 目標 5.5%に届かない状況が続いており、中国国内内需は弱い。また、ロックダウンの影響も、夏場の不需要期も重なり市況は暴落。韓国は造船会社受注好調、加えて風力案件も好調にて国内で忙しい状況が続いている。韓国メーカー3 社の 22 年 1-5 月の販売量は 373 万９千トンで前年同期比 0.1%減、国内販売量は 293 万３千トンで前年同期比 5%増加、輸出量は 80 万６千トンで前年同期比 14%減少。	欧米各国がロシアーウクライナ紛争を起因としたエネルギー価格の高騰・全般的なインフレへの対応として金融引締め策を打ち出したことで、世界的に景気減速感が波及、これに中国政府の強硬なゼロコロナ政策による内需低迷や、ロシアから安価な鋼材・半製品が欧州・アジアへ流出し始めたことで、鉄鋼原料価格は急落、国際的な建材製品市況もこれに合わせて下落する結果となった。中国のコロナ対策・活動制限が収束に向かいつつある中、今後の景気・市況回復への期待はあるものの未だ底打ち要素乏しく、アジア各国 Buyer も依然様子見状態を貫いており、当面はまだ先行き不透明な状況が続くものと思われる。

鉄鋼流通問題懇談会（２０２２年７月）

発表者 ＼ 発表項目	メーカー
	ＪＦＥスチール
１．需給動向（景況感）	（国内）・６月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数（DI）が大企業・製造業で前回(3月)調査比▲5の+9と、2期連続の悪化。資源価格の上昇や円安を背景としたコスト高、中国ロックダウン影響などによる供給制約（サプライチェーン混乱）を背景に、多くの業種で悪化となった。特に原材料高騰に直面する、繊維、木材、鉄鋼等での悪化が目立つ。先行きについては＋10と1ポイントの改善。資源価格高や円安によるコスト高の長期化が懸念される中で、上海ロックダウン解除による正常化・改善が見込まれる。22年度設備投資計画は大企業では前年度比＋18.6%。21年度に予定されていた設備投資の先送り分の発現という側面もあるが、コロナ禍からの回復、経済活動の正常化が進展することへの期待感から、設備投資意欲は高まると見ている。 ・家計部門について、5月小売業販売額は前年同月比+3.6%と3ヶ月連続の上昇。石油製品の価格上昇や行動制限緩和が寄与した。 ・製造部門では４月四輪車生産は前年同月比▲19.1%と9か月連続の減少、3月の機械受注は+7.1%と3か月振りの増加。 ・建築部門では11月の全建築物建築着工床面積は970万㎡と2か月振りの前年同月比減(▲6.9%)となった。 （海外）・コロナ禍からの回復は継続しているが、ウクライナ情勢の長期化、供給制約(混乱)、物価高、中国でのロックダウンや主要国の金融政策変更などが、景気下押しリスクとなっているが、供給制約の緩和や、中国ロックダウン解除による正常化も期待される。 米国：好調な個人消費等を受け、高成長を維持してきたが、高いインフレに対し利上げを進められており、景気の下押し圧力は強まる。 欧州：ロシアとの経済的な結びつきが強く、エネルギーやサプライチェーン混乱の影響を強く受ける。先行き不透明感は増している。 中国：上海ロックダウン影響等により経済停滞も、既に解除されており、下期に向けて、政府景気対策による内需回復が期待される。 ASEAN：先進国の利上げによる資産価値下落懸念はあるが、コロナ禍からの回復や資源高の恩恵もあり、巡航速度の成長が期待される。 ＜国内鉄鋼需給＞ （生産）　・22年6月の粗鋼生産は745万ｔと前年同月比で6ヶ月連続の減少。 （出荷）　・５月の普通鋼国内向け出荷は３０５万トンと４ヶ月連続の減少。 （在庫）　・５月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は６１９万トン３ヶ月ぶりの増加。 ・５月末の薄板３品在庫は４６６万トン（前年同月＋１５万トン）と２ヶ月ぶりの増、依然高位。 ・５月末の厚板シャー在庫は４５万トン（同＋０．５万トン）と９か月連続の増加。
２．需要産業動向	〔建　築〕・５月の新設住宅着工戸数は６．７万戸（前年同月比▲４．３%）で１５ヶ月ぶりの減少。持家と分譲で減少。 ・非住宅着工床面積は３９２万㎡（同▲８．４%）で２か月ぶりの減少。商業・サービス、公務文教が減少。 〔自動車〕・６月の国内販売(輸入車除く)は２９．９万台（前年同月比▲８．９%）。１２か月連続の減少。 ・５月の完成車輸出は２０．７万台（同▲２２．７%）で５か月連続のマイナス。部品供給制約による生産抑制影響が見られる ・５月の四輪生産（速報）は４２．０万台（同▲１６．５%）で１０ヶ月連続のマイナス。 〔造　船〕・６月の新造船受注量は１６０万ＧＴの受注、６月末の手持工事量は２，１８８万ＧＴと４か月連続の増加。。
３．輸出入動向	〔輸出〕　・５月の全鉄鋼輸出は３０２万トン（前年同月比＋９%）で５ヶ月ぶりの増加。韓国、ASEAN向けで増加。 〔輸入〕　・５月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は３９万トン（前年同月比＋６．２%）で４か月ぶりの増加。
４．海外市場動向	・６月の世界粗鋼生産は１億５，８１０万トン（前年同月比▲５．９%）と１１ヶ月連続の減少。 ・６月の中国粗鋼生産は９，０７３万トン（同▲３．４%）。コロナ禍からの回復途上であることや、天候不順による建設需要が停滞。 ・６月の中国鋼材輸出は７５６万トン（同＋１７%）。2ヶ月連続の700万トン超えと高位で推移。 ・中国市中在庫は、７月１４日時点で1,433万トンと４週連続の減少。粗鋼生産減影響と推定。